

## ソーシャルワーク実習における実習記録の ICT 活用の検討

### A Study of ICT Use of Practice Records in Social Work Practice

坂本 毅啓<sup>\*1</sup>, 佐藤 貴之<sup>\*1</sup>, 中原 大介<sup>\*2</sup>  
Takeharu SAKAMOTO<sup>\*1</sup>, Takayuki SATO<sup>\*1</sup>

<sup>\*1</sup>北九州市立大学

<sup>\*1</sup>The University of Kitakyushu

<sup>\*2</sup>福山平成大学

<sup>\*2</sup> Fukuyama Heisei University

Email: s-takeharu@kitakyu-u.ac.jp

**あらまし**：新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、福祉専門職教育におけるソーシャルワーク実習教育においても ICT の活用が求められてきた。本稿では実習記録の作成に焦点化し、どのように ICT を活用することができるのかを検討し、e-ポートフォリオシステムの構想・提案を行った。このシステムを活用することにより、より専門的な指導が行えるようになると考えられる。

**キーワード**：ソーシャルワーク実習、実習記録、e-ポートフォリオ、福祉専門職教育

#### 1. はじめに

新型コロナウイルス感染症の拡大（以下、コロナ禍）を受けて、2020年から福祉専門職教育の実習教育においても ICT を活用することが求められてきた。2020年から2021年にかけて全国の福祉専門職教育の現場において、ICT がどのように活用されたのかについては、日本ソーシャルワーク教育学校連盟による全国調査によって明らかになっている<sup>[1][2]</sup>。この全国調査の結果からも、ソーシャルワーク実習（相談援助実習）において実習記録を電子化し、ICT を活用して良いのではないかという意見が多く見られた。一方で学習者サイドからは、「手書きの方が学習効果が高い」と感じて ICT 活用に反対する意見も見られる<sup>[3]</sup>。

一方で、東京福祉専門学校（2019）では、コロナ禍以前に文部科学省の社会人リカレント教育支援の一環として、eラーニングの活用「指導における即時性や細やかな連携を担保するもの」として実習指導 WEB システムを検討し、試験的運用を行っている。試験的運用後のアンケート結果では、実習日誌について「システムを利用して作成する」が 46.7%（N=30）、「専用用紙に手書きで作成する」が 36.7%（N=30）となっており、システムを利用して作成する意見が若干多いものの、両者の間に有意な差は見られなかった<sup>[4]</sup>。ICT を活用した実習記録が専用用紙への手書きと同様の学習効果があるかを示すことはできてはいないが、どのようなシステムを構想すれば良いのかという点では大変参考になる。

これらを踏まえ、本稿では実習記録（実習日誌を含む）作成に関して ICT をどのように活用すれば良いか、eラーニングにおいて学習者の学習履歴を管理する e-ポートフォリオのシステムを具体的に構想し、提案することを目的とする。

#### 2. 実習記録の教育目的と意義

厚生労働省は現場実習のための実習指導において、「実習記録ノート」（実習記録）の内容と方法について理解することを目的に掲げている<sup>[5]</sup>。同時に実習記録を活用して指導を進めることも求めている<sup>[6]</sup>。福祉専門職養成の教育機関の団体である日本ソーシャルワーク教育学校連盟は「実習指導ガイドライン」において、実習記録の意義・書き方・取り扱いについて理解することを目的として挙げている<sup>[7]</sup>。

実習記録を書く意義は、①「支援活動の内容と結果（影響・成果）を資料として蓄積すること」<sup>[8]</sup>を目的とした「対人援助専門職としての活動を支えるスキル」<sup>[9]</sup>の獲得、②実習前・中・後におけるコミュニケーションツール<sup>[8]</sup>として活用、以上2点を挙げることができる。

#### 3. 実習記録の概要

##### 3.1 実習記録に含まれるもの

実習記録の内容や様式については、各養成校において独自のものを作成して使用することが一般的である。しかしある程度は共通した内容があると言え、概ね次のような一連の書類を準備することが多い。

①実習生紹介票、②実習誓約書、③事前学習記録、④実習課題・計画書、⑤実習先のフェイスシート、⑥実習生出勤簿、⑦実習日誌（実習した日の実習目標と課題、日課と実習内容、実習所感（課題の達成度、利用者処遇での気づき、職員からの学び、自己覚知、疑問・反省）、および当日の指導者の助言）⑧自己評価票、⑨実習報告書、⑩その他（事故報告書など）である<sup>[10]</sup>。

##### 3.2 実習記録の使い方

実習記録は養成校が用意をし、実習生へ配布する。実習生は実習開始前の準備段階から、上記①～⑥の書類を作成し、養成校内の実習指導担当教員及び配属先の実習指導者から内容の指導を受ける。実習期間中は毎日⑦を記入して実習先へ提出し、実習指導

者から指導を受ける。また実習指導担当教員による実習現場での巡回指導時にも実習記録を基に指導を受ける。実習終了後は⑨あるいは実習のまとめを作成して、実習全体のふりかえりを行う。実習事後指導の授業においても実習記録を活用し、最終的な⑨の作成を行う。⑩については各養成校や実習配属先によって異なることがある。近年ではクライアントへの支援過程としてアセスメントシートやプランニングシートの活用も行われている。

### 3.3 実習記録を記入する際の留意点

実習記録では正確に事実(客観的事実)と考察(主観的事実)を書き分けることや、実践記録という公的な性格を持った文書の作成方法(訂正方法、ペン書き)、そしてクライアントのプライバシーへの配慮などが求められる<sup>9)</sup>。

## 4. eポートフォリオの構想

### 4.1 必要な機能

従来紙に書かれていた実習記録でICTを活用する場合、先述の東京福祉専門学校(2019)のシステムが先行的取り組みとして参考となる。その実習指導WEBシステムでは学生の自己紹介、実習目標、実習施設概要、日々の実習記録(出勤時間、重点目標、時系列での実習プログラム・実習内容・気づき、1日のふりかえり(状況・考察・課題)、重点目標の達成度、翌実習日の目標)、その記録を踏まえた実習先の実習指導者のコメント入力機能、実習評価(自己・実習先)が実装されている。システムの課題としては「文章の途中保存機能」の必要性などが指摘されている<sup>14)</sup>。

これを参考にすると、以下のような機能が必要であると考えられる。①オンライン上で記録を作成し、オンライン上のストレージに保存される。②作成後、実習指導者と実習担当教員が内容を添削したり、質問に答えたり、コメントを書くなどのフィードバックができる。③一度提出した実習日誌について、提出後の添削・修正等については変更履歴が残る。④作成した記録は、従来の紙の書式に合わせたPDFでエクスポートすることができる。⑤パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれの端末機材でも操作ができる。これに加えて、可能であれば導入する必要性が高い機能としては、⑥文書作成において日本語の文章作成支援や専門用語の辞書機能と統合された自動添削機能、⑦ICTの操作に不安がある実習生及び実習指導者でも簡単に操作ができるようなインタフェース、⑧文章の途中保存機能、以上3点を挙げることができる。

### 4.2 システムの構想

このeポートフォリオの利用では、パソコンやスマートフォンなどからオンライン上のシステムにログインし、日々の実習記録の作成を行う。

実習指導者と実習担当教員もオンライン上のシステムにログインし、実習記録の添削・講評をしたり、

必要に応じては実習生に対して個別の指導を行う。必要に応じて実習指導者と実習担当教員が連携して指導を行うことに活用する。

先述のように文章作成支援や自動添削機能が実装できれば、記録指導で文章添削に時間を取られることが無くなり、より専門的な指導を行う時間の確保が可能となると考えられる。さらにこのような機能は、近年増加傾向にある外国人留学生にとってもより学びやすい環境を提供することに貢献できると考えられる。

## 5. 今後の課題

本稿ではソーシャルワーク実習におけるICTを活用した実習記録について、構想段階のものを示した。今後はシステムを作り、実際に学習者に使用してもらい、その教育効果について検証を行ってきたい。また、その教育効果の検証のために、ソーシャルワーク実習及びその実習記録作成に関するループリックの作成も必要であると考えられる。

謝辞

本研究はJSPS科研費19K02977の助成を受けたものである。

### 参考文献

- (1) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編:「新たな社会福祉士養成カリキュラムにおける教員研修のあり方に関する調査研究事業」実施報告書, 日本ソーシャルワーク教育学校連盟, 東京(2021)
- (2) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編:「感染症の拡大や災害発生時における、持続的な社会福祉士養成教育の在り方に関する調査研究事業」実施報告書, 日本ソーシャルワーク教育学校連盟, 東京(2021)
- (3) 坂本毅啓, 佐藤貴之, 中原大介:「福祉専門職教育における実習記録のICT活用に向けた課題」, 教育システム情報学会第46回全国大会, pp.223-224(2021)
- (4) 東京福祉専門学校:「社会福祉士を目指す社会人に対する、eラーニング活用による学びの質向上に資するプログラム開発事業 成果報告書」, 東京福祉専門学校, 東京(2019)
- (5) 厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室:「社会福祉士養成課程のカリキュラム」, (2020)
- (6) 文部科学省高等教育局長, 厚生労働省社会・援護局長:「大学等において開講する社会福祉に関する科目の確認に係る指針」, (2020)
- (7) 一般社団法人日本社会福祉士養成校協会実習教育委員会:「相談援助実習・実習指導ガイドラインおよび評価表」, (2013)
- (8) 一般社団法人日本社会福祉士養成校協会編:「相談援助実習指導・現場実習教育テキスト 第2版」, 中央法規, 東京(2015)
- (9) 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修, 白澤政和・米本秀仁編集:「社会福祉士 相談援助実習」, 中央法規, 東京(2009)
- (10) 岡本榮一・小池将文・竹内一夫・宮崎昭夫・山本圭介編:「三訂 福祉実習ハンドブック」, 中央法規出版, 東京(2003)